

年
 組
 番
 名前

教材 1 - A - (1)の解答 古代から中世までの社会の様子

次の (ア) ~ (コ) の説明はどの時代のものであるかを、【表】の中の①~⑨から選び、番号で答えなさい。

【表】

① <small>じょうもん</small> 縄文	② <small>やよい</small> 弥生	③ <small>こふん</small> 古墳	④ <small>あすか</small> 飛鳥	⑤ <small>なら</small> 奈良	⑥ <small>へいあん</small> 平安	⑦ <small>かまくら</small> 鎌倉	⑧ <small>なんぼくちょう</small> 南北朝	⑨ <small>むろまち</small> 室町
------------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-----------------------------

【社会の様子】

- (ア) 稲作が伝わると、人々のあいだに貧富の差ができ、支配者も現れた。
- (イ) おおきみ大王を中心に、大和と周辺の有力な豪族ごうぞくで構成されていたヤマト王権が支配を強めた。
- (ウ) 中・小型の動物と魚や貝、ドングリが重要な食料じょうじょうであり、土器を使用し煮炊きを行う習慣も広まった。
- (エ) 天皇を中心とする国家のしくみを整えようとし、かんいじゅうにかい冠位十二階の制度を定めて、世襲せしゅうではなく個人の才能によって役人を採用することとした。
- (オ) 天候不順や疫病えきびょうで税を納められず逃亡する農民も増え、人口の増加による口分田くぶんでんの不足もあり、こんでんえいねんしさいほう墾田永年私財法が出された。
- (カ) 商業が活発になり定期市の回数も増え、農村にも貨幣が浸透し、どそう土倉とよばれた質屋しちやのほか、酒屋も高利貸しを営み、都市の近くの農民もこれを利用した。
- (キ) 裏作うらさくに麦を作る二毛作にもうさくも始まり、草や木の灰を用いた肥料も普及し始めた。
- (ク) 弓矢や騎馬などの武芸ぶげいに優れ、朝廷や国司に仕えて警備や護衛にあたる武士ぶしがあらわれた。
- (ケ) そう惣と呼ばれる自治組織を形成し、有力者を中心に全員で力を合わせて村を守るようになった。
- (コ) 各地の武士が南朝と北朝なんらいちんとに分かれて戦い、約60年にわたって全国的な内乱ないらんが続いた。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
②	③	①	④	⑤

(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)
⑨	⑦	⑥	⑨	⑧

それぞれの説明文を、教材 1 - F - (1)の表にあてはめて記入してみよう。社会の様子の変化を、時代の流れの中でまとめることができます。

--	--	--	--

教材 1 - A - (2) の解答 古代から中世までの社会の様子

次の (ア) ~ (コ) の説明はどの時代の様子を示したものを、【表】の中の①~⑨から選び、記号で答えなさい。

【表】

① <small>じょうもん</small> 縄文	② <small>やよい</small> 弥生	③ <small>こふん</small> 古墳	④ <small>あすか</small> 飛鳥	⑤ <small>なら</small> 奈良	⑥ <small>へいあん</small> 平安	⑦ <small>かまくら</small> 鎌倉	⑧ <small>なんぼくちょう</small> 南北朝	⑨ <small>むろまち</small> 室町
------------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-----------------------------

【社会の様子】

- (ア) 各地の武士が北朝と南朝に分かれて戦い、約60年にわたって全国的な内乱が続いた。
- (イ) 貴族が力を伸ばし、藤原氏が自分の娘を天皇のきさきとし、その子を次の天皇にたてることで勢力を伸ばした。
- (ウ) 中・小型の動物や魚・貝、ドングリを主な食料とし、土器を煮炊きに使い、同じ場所にむらをつくって暮らすようになった。
- (エ) 新しい都として平城京がつくられ、天皇を中心に律令に基づいた政治が行われたが、重い負担により逃亡する農民が現れ、公地公民の原則が崩れていった。
- (オ) 平氏を滅ぼした源頼朝が幕府を開いて武家政権を立て、武士による政治が行われるようになった。
- (カ) 稲作が伝わり、土地や水をめぐる争いから、むら同士の戦いがおこるようになり、むらの指導者の中には、戦いで周りのむらを従えて小さな国をつくる者も現れた。
- (キ) 冠位十二階や十七条の憲法を定めるなど、天皇を中心とする国家の仕組みを中国や朝鮮にならって整えようとした。
- (ク) 大王を中心に、近畿地方の有力な豪族で構成された大和朝廷が、東北地方南部から九州地方にかけて支配を広げていった。
- (ケ) 有力な守護大名が力を持つようになり、幕府の力が地方まで及ばなくなる一方、産業や商業の発達を背景に、都市や農村で自治が行われるようになった。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
8	6	1	5	7

(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)
2	4	3	9

各時代の特徴やその時代のキーワードとなる重要な語句を整理して、どのような時代だったのか説明できるようにしてみましょう。

年 組 番 名前

教材 1-A-(3) 解説 「古代の日本の様子」

表のア～エにあてはまるものを、下の①～④からそれぞれ選び、記号で答えましょう。

古代のおもなできごと				
① 天智天皇が亡くなると、あとつぎをめぐる争いから壬申の乱が起こった。				
② 中大兄皇子や中臣鎌足らは蘇我氏をたおし、大化の改新を行った。				
③ 有力な貴族や僧の勢力争いがおき、政治が乱れたため、現在の京都に平安京をつくり、政治を立て直そうとした。				
④ 朝廷は、墾田永年私財法を出し、新たに開墾した土地であれば、開墾した者が永久にその土地を所有することを認めた。				

表

	古い → 新しい				
できごと	ア	イ	大宝律令とよばれる法律が作られた。	ウ	エ

【答え】

ア ②	イ ①	ウ ④	エ ③
---	---	---	---

時代の流れや順番を問う問題では、ひとつひとつのできごとの理由（きっかけ）やその結果について理解しておくことが大切です。

